

本数より企画の質を量産する、 勝ちパターンのナレッジ化

制作会社のノウハウを、社員が再現できる運営の仕組みへ。

反応の理由を、次の人が使える形にする。

この資料で整える5つ

残す企画の選び方

事実と解釈の分け方

再利用できる企画カード

探す・使う・更新する担当

次の制作で確かめる方法

完成動画を保存するだけでなく、誰に何が伝わったかと判断の理由を共有します。

動画のリンクだけでは、判断を引き継げない。

見直したい兆候

良い動画の理由が「何となく」になる

再生数の高い動画だけを集める

同じ見た目を別の対象へ使い回す

古い条件や注意点が残らない

企画の背景・反応・制作条件をセットにして、使える範囲を明確にしましょう。

勝ちパターンは、条件付きの仮説として残す。

対象	誰のどんな疑問に答えたか
表現	どの見せ方や説明順を試したか
結果	目的行動と中間指標はどうだったか
条件	予算・期間・媒体・導線は何か

一度良かった結果を万能な正解にせず、次に確かめたい仮説として扱います。

残す企画は、**目的と再現性**で選ぶ。

選ぶときの問い

目的行動までの流れを確認できるか

反応の良い理由を説明できるか

現場の声と数字が対応しているか

制作手順と負荷を追えるか

次の企画で確かめる点があるか

再生数だけで採用せず、うまくいかなかった例や保留の理由も学習材料にします。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）



内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

企画カードに、背景と判断をそろえる。

基本の5項目

対象の場面と疑問

伝える答えと期待する行動

台本・素材・完成動画の場所

数値・反応・制作条件

残す型と次に変える要素

カードの管理番号を動画と台本にそろえ、元の情報へ戻れる状態にします。

事実・解釈・再検証を、混ぜずに記録する。

事実	集計した数字と確認できた反応
解釈	反応が起きた理由として考えたこと
限界	比較条件の違いや不足する情報
再検証	次の動画で確かめたい一要素

解釈だけを結論として残さず、どの事実から考えたかをたどれるようにします。

型にする部分と、企画ごとに**変える部分**。

型として残す

疑問の示し方、答えの構成、必要素材、公開前の確認

毎回見直す

視聴者の場面、具体的な答え、根拠、条件、案内先

同じ字幕や尺をなぞるだけでなく、**今回の視聴者に必要な内容へ置き換えます。**

素材と手順まで残すと、制作で使いやすい。

制作担当へ渡すもの

台本と採用した構成の意図

必要カットと撮影条件

編集テンプレートと注意点

修正履歴と直した理由

権利・公開範囲・確認者

社外秘や個人情報が必要以上に残さず、利用できる素材と範囲を明示します。

探し方は、次の企画の問いに合わせる。

分類の例

目的行動と対象の場面

視聴者が抱く疑問

見せ方・説明順・CTA

媒体と公開時期

検証中・再利用候補・見直し待ち

分類を増やしすぎず、担当者が実際に探せるかを少数のカードで確かめます。

保存・利用・更新の責任を決める。

作成者

台本と実施条件を残す

分析者

数字と反応を追記する

確認者

解釈と利用条件を点検する

利用者

次の制作で使った結果を戻す

兼務は可能です。版番号・更新日・更新者を残し、古い版と最新版を区別します。

使われたかと、次の判断に役立ったかを見る。

利用	次の企画で参照されたか
理解	担当者が採用理由を説明できたか
制作	修正理由と負荷を引き継げたか
学習	再利用した結果がカードへ戻ったか

蓄積した件数だけを目的にせず、使われない理由や古くなった条件を見直します。

月4本・8週間で、**残す型**を見極める。

モデルケース

月4本の企画と撮影を社内で実施

初期の編集テンプレートは外部と整備

各動画の反応と制作負荷をカード化

8週間で再利用候補と保留を整理

これは実績や成果保証ではなく検証のモデルです。次の制作で使った結果まで確認します。

90日で、保存から更新までを回す。

0～30日

目的・項目・担当と4本の企画を決める

31～60日

制作の記録を残し、カードを使ってみる

61～90日

利用結果と負荷を見て分類と型を更新

期間は目安です。内製・外注の分担も見直し、続けられる記録量に整えます。

最初的一本から、判断の理由を残す。

今日決める5つ

カードに残す動画と目的

根拠となる数値と現場の声

再利用する型と使えない条件

記録と更新の担当者

次の企画で確かめる日

ショート動画屋さんの内製化支援では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する